



泉州広域母子医療センター
「安心・安全なサービスの提供、
満足度の向上を目指します」

泉州広域母子医療センターは、りんくう総合医療センターの「周産期センター」と市立貝塚病院の「婦人科医療センター」から成り、周産期センターには24時間365日、常に産科医2人以上、新生児専門の小児科医1人以上が待機していますので、ハイリスクの患者さんも安心で安全な出産ができる体制を整えています。

また、引き続き、感染症予防対策を徹底して実施しており、その他にも、おいしい妊産婦食を提供するなど、患者さんの満足度を高める取組を引き続き進めています。

なお、泉佐野市、貝塚市、熊取町、田尻町、泉南市、阪南市、

岬町に住んでいる人の分娩は同一料金で、他の地域に住んでいる人より割安な料金となっていますので、ぜひ利用してください。

問合先 りんくう総合医療センター (☎469・3111)

※詳しくは、ホームページ(<http://www.sensyubosi.com/>)をご覧ください。

◀ホームページ



予防接種の受け忘れは
ありませんか？

予防接種のタイミングは、感染症にかかりやすい年齢をもとに決められています。

麻しん・風しん混合ワクチン(MR) 2期および高齢者肺炎球菌予防接種は、令和6年3月末で対象年齢の接種が終了します。今年度の対象者は、接種歴を確認し、受け忘れがないようにしましょう。

問合先 健康推進課

モンゴルのお葬式

問合先 自治振興課

みなさんは、「風葬」という言葉を知っていますか？ 2003年の冬、病気だった祖父が長男である私の父親を時々呼び出し、自分が亡くなってからのことについて詳しく伝えていました。祖父は幼い頃、お寺で読経を心がけながら仏道の学習に励んでいましたが、社会主義政権による弾圧によって、生き残るために一般人になり、戦場まで経験した元僧侶でした。



◀杜松(トショウ)の葉

祖父が天国に行き、お葬式の日には僧侶を呼び「ハゲワシを呼ぶ」経文などを唱えてもらい、「人間は自然の一部、僕が死んだら自然の循環の中に戻し、墓石を用いないでください」と祖父にお願いされた通り、地元の墓地として決まった広い草原で自然に放置しました。一週間後に確認すると、きれいになくなっていたので、祖父は無事に来世への道を旅立ったとみなされました。祖父のお葬式はこの時代にしてはとても珍しく、しきたりを知っている人もいないかわからないモンゴルの伝統的な風葬の方法でした。

モンゴルの都市部では日本と同様に火葬が一般的です。母方の祖父は都市部の人だったので、日本と同じように業者に任せて火葬しました。一方、自分の父親は、地方ながらの土葬でした。また、モンゴルでも日本と同じように、初七日と四十九日の法要をします。

モンゴル人のしきたりとお葬式

- 故人の魂が来世へ旅立つのに邪魔になるからあまり泣いてはいけない
 - 来世への道を見やすくするように、金属製のゴブレットのようなものに油と芯をのせ、四十九日間火をともし
 - 杜松(トショウ)の葉を粉状にしたものを焚く
 - 母親の墓参りは3年後から、父親なら5年後からできる
- 他にも数えきれないほどしきたりが多いです。お葬式は、今後引き継がないといけない母国の文化が詰まりに詰まった行事です。その文化も学んでおいた方がいつか主役になって行う日のためになると思います。



▶ズル(火をともしもの)

オギ
▶国際交流員の



今月のモンゴル語

Өвөө (ウブオー) : 祖父
Уламжлал (ウラムジラル) : しきたり
Оршуулгын зан үйл
(オルシューラフ・ザン・ウйл) : お葬式